

まちづくり専門家プロフィール

ふりがな	さとう えいいち	
氏名	佐藤 栄一	
区分	アドバイザー	コンサルタント
専門分野又は得意とする分野 1 地域活性化のための企画デザイン及びコーディネート 2 町内会の事務局の改善・提案		
主な実績 「数々の地域問題」パンドラの箱の底にある幸福を、多数の人間と確認できた。		
資格等 全国商業高等学校協会 工業簿記1級		
まちづくりに関する活動履歴 H 3年～ 仙台梯子乗り手の会「乗心会」設立事務局 H 5年～ 秋保ファンクラブ「あきう6000」初代会長（現在3代会長） H 7年 宮城県地域づくり実践塾 入塾 H 8年～ 「秋保そば愛好会」会長 H10年 「せんだい・みやぎNPOセンター」設立企画部委員 情報サポート部会所属 H11年 「(現)秋保・里センター」設立企画運営委員 H12年 秋保商工会／地域ビジョン策定専門委員会 委員 H12年～ 特別養護老人ホーム大東苑を応援する会「大東苑輪の会」設立事務局 H15年～ 秋保在来種蕎麦「野尻長治そば」保存および生産 H15年～ 秋保消防団活性化対策事業運営委員 H21年～ 秋保消防団地震防災アドバイザー H21年～ みやぎ・仙台商工会 工業部会 幹事 「あきう6000」主な活動 提言：「せんだい・秋保文化の里構想」・「二口地区地域振興」 イベント：「そば祭 in 野尻」, 「クロスカントリースキー in 二口」, 「収穫祭 in 湯元」, 「収穫祭 in 石神」, 「秋保・里山学校」, 「100万人の森コンサート」 その他：秋田県皆瀬村との交流及び作品展示「皆瀬芸術村」 長町商店支援 作品出品 チェルノブイリの子供達 5名秋保滞在 2回受け入れ 阪神淡路大震災 淡路島一宮で炊き出し2500食等		

まちづくりに関する活動現況

【 秋保そば愛好会 】

1994年、二口地区地域振興の一環で始まった「そば祭 in 野尻」。
秋保ファンクラブあきう6000が主体で、地元のおばちゃん達やそば好き仲間達とで開催していたが、初代秋保そば愛好会会長太田氏から「秋保そば愛好会」の名称を受け継ぎさらに連帯感を強めた。
2001年第8回から野尻町内会に主催が以降したが、愛好会は祭りのバックアップ役で昨年の第16回そば祭りをおこなっている。

当初、野尻町内会会長管理の休耕田に仲間達と蕎麦を作付け。その後、地元で蕎麦を栽培する農家6軒を知り譲り受けた蕎麦でそば祭りを開催。また、郷古まさいさんの在来種蕎麦とも出会う。
60年以上守り育ててきた郷古まさいさんに敬意の念で、旦那さんの名前チョウジから「野尻長治そば」と銘々。2005. 11. 12日に、初回から携わる野尻のおばちゃん達と共に決めた。

会員には、野尻長治そばを栽培する野尻のおやじさん達や、長治そばを取り扱うソバ屋さん達も加入。
会費や規約も無く特定会員すら特に決まっていなかったが、新たな「秋保そば」のファンが増え活動も広がっています。

※「そば祭 in 野尻」は、当日の売り上げで運営。利益は、そば道具購入資金に充てた。(3セット)

野尻地区以外での活動例)

- ◆恒例のまつりだ秋保にて、JA秋保ブースでのそば打ち実演とそば料理提供に協力。
- ◆スローフード仙台の協力による、秋保在来種蕎麦「野尻長治そば」を含む多種類の蕎麦との食べ比べ会食を通じ、「在来種の個性」を知ってもらう事ができた。
- ◆各種雑誌等で「在来種野尻長治そば」を掲載して頂いた事で、他の蕎麦との違いが解りやすくなった。
- ◆野尻町内会企画の、そば打ちの後継者育成に協力予定。
- ◆秋保中学校でそば打ち遊び予定。
PTA2回・教職員1回・給食担当者3回。各々に、プロ達始めアマチュアも指導にあたる。
- ◆秋保馬場小学校・野尻町内会・石神そば道場が、秋保中学校でのそば打ち講習会にそば打ち道具貸し出しの協力を得る。

課題)

- ◆昨年の種まき期の長雨により在来種が激減。
- ◆6反歩の畑で作付け。しかし、6町歩の減反政策での他の蕎麦品種からの自然交配が避けられない。
※一旦は在来種を増やし、秋保の減反政策蕎麦作付け12町歩全てに在来種を植えるまでに至った。
(全て買い取り)
しかし次年度、乾燥機での種の混粒や管理の不手際から在来種と呼べるものではなくなってしまった。(最低3年は、新しい種で作付けしなければならない。)
- ◆せめて、野尻地区の蕎麦を在来種にしたいが、6町6反の独自蕎麦生産能力が無い。(刈り取り・乾燥・石抜き・磨き・地代支払い等)

後記)

今年は、自ら生産意欲を持つ地元の作業班により、休耕畑6反歩の作付けは確保できたものの、残念ながら減反政策6町歩の前年度残粒種への対策は無い。
光明なのは、地元の小中学校関係者達のそば打ちが盛り上がり、新たなそば文化への継承ができる事に胸をなで下ろします。

【 地産地消 】

経済省とは別に、農商工連携を模索しています。

一旦は商工会の相談窓口で専門家のアドバイスを受けたが、相談員との連携が上手くいかず中断。幸いにも秋保では、経済省からの助成を受け「観農商工連携」を進める事ができ、器などを作る工人とパンフレット作成などでのアピール連携が上手くいっている。ただ残念なのは、提出期間に限りがあり「新たな創出の育成」までいけないことでした。

地元にある沢山の物語と資源が、上手な契約と開発により育成されて行くことを望みます。

例)

◆ 地産古代米と環境保全米での、にごり酒をつくる。

課題：

数量の問題 = 近隣農家との契約。

酒の生産 = 仙台市での特区は可能か否か。宮城県では、鳴子 松島 大河原が、どぶろく特区。

酒の生産委託 = 開発費の欠如。

保存 = 常温の保冷庫が必要。

◆ 過去に総理大臣賞(?)を受賞した、地元発案そばのお菓子がある。地元の銘菓をつくる。

課題：知的肖像権 = 当人の関わり方と契約の仕方。

生産 = 小規模でも工場が必要。

生産委託 = 地元の雇用に貢献できるか否か。

◆ 他多数

課題：商品化 = 良い素材を持っていても、個人が単独で商品化を進めるには無理がある。しかし、地域専属専門チームで此にあたれば可能性が高くなる。

【 地震防災アドバイザー 】

もはや来るであろう大規模震災。それに対処すべく消防関係が中心で備えを啓発する。町内会単位では、地区の婦人会などが中心で勉強会を催している。課題としては、危機感を継続できない事と団体活動での連携意識の欠如だと思っています。

そこで、「自分の身は自分で守る」を基本に、「自分を助けてくれるものの確認作業」を一緒にする事から始めていますが、危機感が無いのは個人だけではなく各種団体も同様のようです。

例)

◆ 防災マップをつくる事での課題。

自分の家からの最も近い避難場所の確認や、指定避難所までの通路で危険なものを認識し危険を取り除くための初歩的防災作業です。

宮城県沖震災で倒れた塀での死亡事故があつて依頼、崩れそうな塀は見かけなくなった。次に問題になっているのが倒木です。

課題：個人的財産は対処が困難。また、個人が対処できる限界がある。

他人の財産でも自分に危害がおよぶ場合、話し合いで合意が得られるか否か。

他人へ危害を与えるかもしれない、倒木しそうな木の伐採への助成行政サービスがない。

※個人の利害に対処するには、第三者の人的労力・金銭的支援などの具体的軽減助成も時には必要。

※損得でなく5万円(個人的対処体験金額)で救える命がきっとある。

まちづくりについて考えること

修正すべきところは、修正すれば良いだけのこと。

修正できなければ、補う努力をすること。

ただそれだけのことです。